

平成28年4月6日

ODA等による人材育成事業対象校 における日本企業就職ニーズ

外務省

平成28年4月6日

ODAによる高度人材育成事業の受入れの現状と課題

ODA等による開発途上国における高度人材育成事業の目的：
相手国社会経済の質の高い成長を支援
現地に所在する日本企業に資する人材の育成支援

高度人材の国際的な獲得競争
アジアの高度人材の欧米諸国等への流出

高等教育・高度技術の習得にもかかわらず、自国内で専門を活かした職種に就くことが困難な環境

高度な人材が日本を含むアジア域内で環流するシステムづくりが重要

アジアの高度人材の日本での就職ニーズ

アジアの高度人材の受入れを行う
産学官コンソーシアムの展開

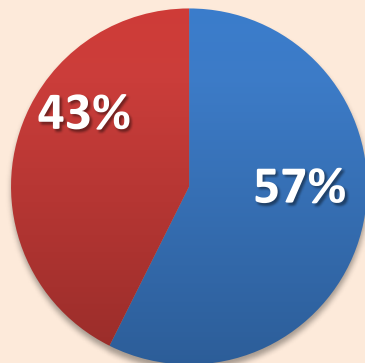
ODA等による人材育成事業と日本国内における就職支援により、
日本とアジア双方における持続的な経済発展、イノベーションを後押し

- 【調査対象】** ODAによるアジアにおける主な人材育成事業対象校：
 (1) インド工科大学ハイデラバード校, (2) マレーシア日本国際工科院,
 (3) (ベトナム)ハノイ工科大学, (4) ハノイ工業大学
 (5) (タイ)泰日工業大学
- 【調査時期】** 2016年2月末～3月下旬
- 【調査方法】** アンケート及びインタビュー調査 (在外公館経由)

(1) インド工科大学ハイデラバード校 (IITH)

- 【調査対象】**
 学部生122人
 (電子工学科及びコンピュータサイエンス学科専攻)

- 日本国内の日本企業に就職することに関心がある
- 関心がない



◆70名(回答者の57%)が、「日本国内の日本企業での就職に関心がある」と回答。

◆50名(同40%)が、「実際に日本での就職を目指して情報収集したことがある」と回答。

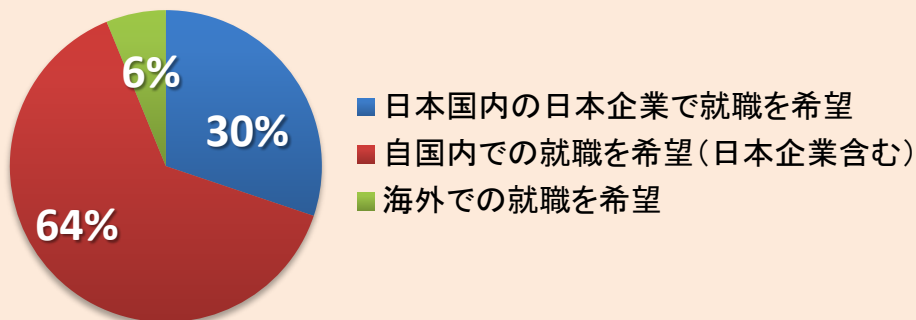
◆回答者の97%が「現地の日本企業での就職に関心がある」と回答。

◆JICA長期研修生(計4名)の就職状況及び採用企業先：
 ①スズキ(2015年), ②人と未来防災センター(2015年), ③日産(2016年), ④留学

◆「『知るカフェ』が海外展開を開始 ～世界最高峰のインド工科大学内に今春オープン～」(産経新聞, 2016年2月)・・・【記事①】

(2) マレーシア日本国際工科院 (MJIIT)

【調査対象】 学部生513人(うち有効回答229人)
うち就職希望者146人(回答者の64%)
(化学プロセス学, 電子システム学, 精密機械学専攻)



◆就職希望者は、回答者の64%(146人)。うち、日本国内の日本企業で就職を希望するとの回答は、30%(43人)。また、現地の日本企業での就職を希望する者は、89%(129人)。※就職希望者に就職希望地を選択させる設問で複数回答可

- ◆2015年10月第1期生73名卒業。うち約20名が日系企業に就職(うち1名は日本国内のインターン先(共和電業)に就職)
 - 「日本式工科大MJIIT, 1期生が卒業 - マレーシアが目指す「東方政策」の集大成」(共同通信, 2015年10月26日)
- ◆「金の卵探せ 東レやサムスン, 東南アの大学と連携」(日本経済新聞, 2016年3月14日) …【記事②, ③】

(3) (ベトナム) ハノイ工科大学

【調査対象】 ITSS(日本が定めるITスキル標準)に基づくコースを専攻する学生の就職動向につき、情報通信学部データコミュニケーション・コンピュータネットワーク学科副学部長から聴取

◆同大のITSSに準拠した教育プログラム及び日本語教育のコースを選択する学生は年間120~140名で、概ねその100%の学生が卒業後に日本国内の日本企業に勤務することを希望しているが、実際に日本国内に就職できる学生は、その1/3~半数程度。

◆ハノイ工科大学IT高等教育人材育成プログラム(2006~2014年)は、日本語や日本の商習慣を理解し、ITの開発現場で日本人エンジニアと専門用語でコミュニケーションできるエンジニアを育成。現在は、民間企業がJICAの支援終了後、IT日本語指導支援を引き継ぎ支援している。

(4) (ベトナム) ハノイ工業大学

◆これまで約2500名の卒業生が現地の日本企業に就職。管理職に就いているケースもある。

◆パソナテックベトナムは日産テクノベトナムと同校と人材育成に関する産学連携協定を締結。高度な専門教育プログラム「先進技術者育成プログラム」を同校に提供。同プログラム修了者の優秀な人材を自社社員として採用し、日本勤務を希望する技術者に対しては日本でのキャリアデザインをサポートする。(ベトジョー ベトナムニュース, 2014年8月29日)・・・【記事④】

◆日本国内の日本企業で就職した例

「中小企業, 金の卵は外国人「攻めの経営」中核に」(日本経済新聞2016年3月14日)

- 2人のベトナム工業大学卒業生が正社員として振興電気(電気設備工事)に就職・・・【記事⑤】

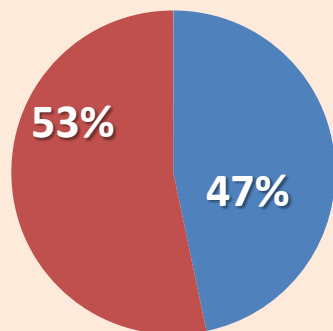
(5) 泰日工業大学 (TNI)

【調査対象】

2011～2014年 (第1～4期)卒業生就職者 1558人

■ 実際に日系企業に就職

■ 実際に非日系企業に就職



◆ 1558人中728名(47%)が現地日系企業で就職

◆ 2011年卒業生165名のうち4名が日本に就職



泰日工業大学でロボット作りに励む学生(写真提供: JICA)

日本で就職するに当たり困難を感じている点

- ◆ 入国管理システムが他国に比べ厳格であると考えられている。(IITH)
- ◆ 多くの学生が語学を障壁としている。(IITH)
- ◆ 日本国内での就労を志望する学生は多いが、現地の日本企業において、日本から幹部が送り込まれてくるため、マレーシア人は一定以上は昇進できず、現地従業員の信頼感や勤労意欲を維持しにくいのではないかと懸念されている。このような状況では、マレーシア日本国際工科院への進学意欲も損なわれるとの指摘があった。(MJIT)

キャリアプラン(職種, 滞日期間等)

- ◆ 日本国内の日本企業での就職に当たっての関心分野は、ITや製造業との回答が多数。(IITH)
- ◆ 泰日工業大学生(進学希望者除く)の上位の就職希望先は、製造(52%)、エネルギー(27%)、通信(22%)。
- ◆ 泰日工業大学生は、必ずしも大企業にこだわらない。会社の知名度や社会的評価はある程度重視する一方、給与・福利よりも会社の方針・業務内容に関心があるとの結果が示された。
- ◆ 想定する日本での就労期間として、「5年以内(に母国へ帰還したい)」と答えた学生が半数以上(日本で5年以上キャリアを積みたいとする回答は約2割)。(IITH)
- ◆ ベトナム国内におけるIT関連企業の絶対数の増加を背景に、日本国内で5～10年程の勤務を志望するIT系学生が多くなってきている。(ハノイ工科大学)



マレーシア日本国際工科院の新規留学生・卒業生の激励会
(写真提供: JICA)



ベトナム工業大学での溶接授業
(写真提供: JICA)